

報道機関各位

熊本大学

平成28年熊本地震による 土砂災害リスク増大に対するバス送迎サービス を用いた要支援者の予防的避難促進政策の運用を開始

1 概要

熊本県南阿蘇村では、熊本地震により土砂災害リスクが増大しているため大雨時の避難の重要性が高まっています。熊本大学では、自力では避難できない高齢者等の要支援者に対して、明るいうちに乗合いタクシーで自宅まで迎えに行き、温泉施設でもある避難所まで連れていくバス送迎サービスを調査・企画し、南阿蘇村役場とともに運用を開始しました。

2 背景

南阿蘇村では、熊本地震の一連の地震活動により土砂災害の危険性がこれまで以上に非常に高くなっており、梅雨や台風時期の豪雨時には従来の予測を超えた範囲にまで土砂災害が発生する恐れがあります。人命を土砂災害から守るには早めの避難が重要ですが、自力では避難できない高齢者や身体の不自由な方については何らかの避難支援が必要となります。特に、土砂災害の危険時に家族や近隣コミュニティからの避難支援が必ずしも受けられない要支援者については、公的な避難支援サービスが求められます。こうしたニーズに対応するため、自力で避難できない高齢者等の要支援者を対象に、自宅と避難所間にバス送迎サービスを運行し予防的避難を実施します。これからの梅雨末期や台風時期の大雨に対して、住民避難の選択肢を広げる取り組みとしても期待されます。

この取り組みは、熊本大学が取り組んでいる熊本復興支援プロジェクトの一環（阿蘇自然災害ミチゲーションプロジェクト）でもあります。

3 内容

- 対象範囲 : 南阿蘇村の土砂災害警戒区域がある行政区
※既に地震による避難勧告が発令されている地区は除く
- 対象者 : 高齢者等の要支援者（自力で避難できない世帯） 12世帯15人
- 避難先 : ウィナス（南阿蘇村総合福祉温泉センター）：南阿蘇村河陽4530
- 運用開始 : 7月7日（木）
- 利用料金 : 無料
- 実施者 : 南阿蘇村
- 協力 : 熊本県知事公室危機管理防災課
- 企画・支援 : 熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター
- 運行協力 : 予約型乗合いタクシー（地元タクシー業者2社利用）

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院自然科学研究科
附属減災型社会システム実践研究教育センター
担当：藤見・渡邊 TEL：096-342-3489

平成28年熊本地震による 土砂災害リスク増大に対するバス送迎サービス を用いた要支援者の予防的避難促進政策



熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター

背景

- 1 熊本地震により土石流、地すべり、山腹崩壊等の土砂災害が発生した。また、山腹には多くの地割れや亀裂が生じ、溪流には土砂や流木が堆積し、今後の豪雨による土砂災害リスクが増大している。
- 2 熊本地震により避難路となる道路も地割れや沈下により健全度が低下している。
- 3 要支援者（高齢者）が自然災害により被災する事例が多発
- 4 阿蘇地域における九州北部豪雨災害の死者の高齢者割合は6.2%

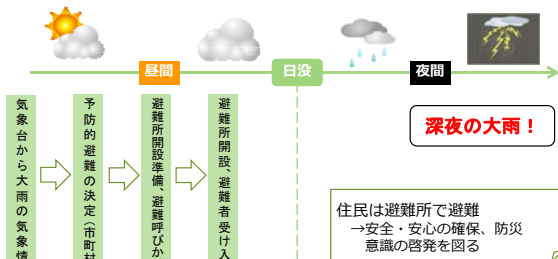
- ・新興住宅地ではなく昔からの山裾等危険な地区に住んでいる
- ・避難途中に負傷して死亡率が高い
- ・緊急に避難することが難しい

災害時の避難支援を特に必要とする住民



予防的避難とは

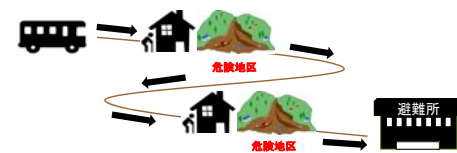
夜間に大雨が予想される場合危険の差し迫っていない**明るいうちから避難を行うこと**



バスを利用した予防的避難の支援政策

バス送迎サービスによる予防的避難支援政策

- ・予防的避難の発令時に事前に登録された要支援者をバスで送迎
- ・危険地区に居住している要支援者を送迎
- ・各戸を訪問し、避難所まで送迎
- ・料金は課さない
- ・避難所は、要支援者でも避難できる快適さを持つ



バス送迎サービスの対象者の選定方法

- ・熊本地震後の住民避難形態状況調査（南阿蘇村：全戸調査）
全住民の避難状況を把握
- ・自宅で生活し一人で避難所へ行けない要支援者をリストアップ（27世帯）
（熊本地震による避難勧告発令行政区は、避難要請済みのため対象から除く）
- ・リストアップされた要支援者の避難経験、バス送迎サービス参加意向調査（熊本大学：訪問調査）
- ・バス送迎サービスへの参加者は、12世帯15人
- ・コスト削減と事業継続のため、既存サービスである乗り合いタクシーを活用する。



バス送迎サービスによって危険地区の 要支援者を予防的避難させるメリット

従来の避難の問題点

- 行政**
 - ・災害の危険が高くなった時点に対応するので多くの人手が必要となる
 - ・危険地区の要支援者の避難支援だけに時間・労力が割けない
- 要支援者**
 - ・避難時の移動が負担
 - ・自力で避難できない
 - ・避難中に危険に遭遇する可能性が高い

バス送迎による改善

- ・時間・人手に余裕がある段階で避難させられる
- ・あらかじめ避難してもらっているので、緊急時に危険地区の要支援者に対応する人手が少なくて済む
- ・自宅から避難所まで送迎するので移動の負担が軽減できる
- ・安全なうちに避難するので避難中に被災することはない
- ・時間に余裕がある中で避難準備ができる

